

## 英米文化研究会役員（令和3年度）

会 長：日影 尚之（2012年～）

副 会 長：犬飼 孝夫（2012年～）

理 事：中山 理（2009年～）、渡邊 信（2010年～）

庶 務：田中 俊弘（2012年～）

会 計：佐藤 良子（2018年～）、Richard John Walker（2018年～）

会計監査：望月 正道（2012年～）

編集委員：A. Nicolai Struc（2012年～）、高本 香織（2015年～）、Andrew S. MacNaughton  
（2016年～）、花田 太平（2017年～）、Jason M. Morgan（2017年～）

## 令和3年度の活動

### 令和3年

9月30日（水）『麗澤レビュー』第27号刊行

### 令和4年

2月7日（月）例会（Zoomにて）伊藤綾香会員

Title: "My research history—Intercultural Communication, Social Welfare of the Elderly and Human Computer Interaction"

2月7日（月）総会（Zoomにて）

## 編集後記

Editing” has two senses. The first is line-editing, going through essays with a fine-toothed comb (well, metaphorically—used to be a blue pencil, now it’s mostly online) and trying to smooth out wrinkles in grammar, syntax, spelling, margins, spacing, and fonts. I’ve been doing this job as a semi-pro for a long time, starting back at the University of Hawai’i some twenty years ago at a small academic journal and continuing through work on translation projects and at other journals and outlets since then. This kind of editing is a dialogue with a writer, so it can be done by just one editor (although the more eyes on a page, the better).

The second sense of “editing” connotes taking a macro view of a piece, and of a journal or newspaper or magazine or website as a whole. This is a people-oriented job. It requires e-mails (lots of them), setting deadlines, watching the clock as deadlines approach and e-mails suddenly stop coming in, and more e-mails about edits to copy. But there’s another “person” involved in this kind of editing: the reader. The editor at the macro level must be an advocate for the reader, must think about how someone who opens the publication and begins to read will react to the words on the page.

Over the past few years, I have had the good fortune to work with Takamoto-sensei in the “back offices” (there’s not really a back office, or a front office either) of Reitaku Review. She is a gifted editor in both senses of the word. She has an eye for detail and the dedication required to corral all stray commas and periods into their proper places. She also has the people skills to work with writers and keep the journal on track, so that readers will benefit from the time they spend with our pages. I am happy to have the chance to thank here, in public, Takamoto-sensei for her guidance, and also to share with readers what a good advocate they have in her at Reitaku Review.

Jason Morgan

私が麗澤大学に着任してまだ間もないある日のこと。授業を終えて帰宅しTVをつけると、派手な衣装に身を包んでおいおい泣いている王様が目に入った。王様の名前は「キング・マクベイ」。大げさな演技がユーモラスで楽しい。しばらく観ていて気づいたのだが、そう、それはクリス・マクベイ先生だった。マクベイ先生はEテレで英会話の番組を持っていて、麗大生だけでなく、日本全国の人々に英語を教えているすごい先生だったのである。

それから数年後、アメリカに帰国することになった同僚の先生のお別れ会に、もうすぐ2歳になる息子を連れて参加した。大学の近くの小さな居酒屋で、英語専攻の先生達15名くらいでワイワイ食事をしながら、マクベイ先生が何度か大げさな身振りで「Oh my God!」と言って皆を笑わせていた。その時である。皆がシーンとした瞬間に、息子が「オーマイガーァ!」と言って皆を笑わせたのだ。それはもう絶妙なタイミングで。息子は身振りも真似て、すっかり小さなマクベイ先生になりきっていた。なんと、マクベイ先生はまだ日本語もろくに話せない乳幼児にも英語を教えてしまうすごい先生だったのである!

それからさらに数年後、私はマクベイ先生の学生になった(正確に言うと授業を“聴講”させていただいた)。毎週木曜の午後、院生数名と先生の研究室に集まった。15週間、私は学ぶのが楽しくてしかたなかった。それはマクベイ先生の研究室のフェアトレードのコーヒーとお茶菓子が美味しかったからだけではない。何より、マクベイ先生の存在そのものが、学ぶことを楽しみに変えてくれたからだった。緊張感を保ちながらも笑いの絶えない授業。普通のシンプルな教材が、マクベイ先生の手にかかるとなんだか違ってしまふ。不思議だ・・・そうか!!マクベイ先生は魔法が使えるすごい先生だったのだ!!

それからさらに時が経ち、今年の麗澤レビューに、マクベイ先生の特集記事を掲載することができた。マクベイ先生、長い間、世界中の人々に楽しく学ぶ機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。いつまでもお元気で、これからも沢山の人の笑顔に囲まれてお過ごしください。

最後に、今号に貴重な研究の成果をご発表くださった先生方、査読にご協力くださった先生方、そして編集委員の先生方にお礼を申し上げます。特にマクベイ先生の特集ページの編集をサポートしてくださったモーガン先生にこの場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

高本 香織

# 麗澤大学英米文化研究会規約

- (1) 本会は「麗澤大学英米文化研究会」と称し、本部を千葉県柏市光ヶ丘2-1-1 麗澤大学外国語学部英語二専攻共同研究室におく。
- (2) 本会の会員は、麗澤大学において英語・英米文化の教育・研究に携わる専任教員、あるいは会員1名の推薦を受け、会長の承認を得た者とする。
- (3) 本会に会長をおき、その任期を2年とし、再任をさまたげない。なお、会長の選出は、年次総会における会員の互選とする。
- (4) 本会に副会長(1名)、理事(2名)、庶務(1名)、会計(1名)、会計監査(1名)、編集委員(若干名)をおく。任期は2年として、再任をさまたげない。なお、その選出は、年次総会における会員の互選による。
- (5) 本会の会費は年2千円とする。ただし会員が学生の場合は年1千円とする。
- (6) 本会は、英米文化、言語全般および関連分野の研究を行うことを目的とし、以下の活動を行う。
  - 1) 研究発表会  
年数回。随時発表者を決めて会員の研究発表会を行う。
  - 2) 年次総会  
年1回(6月の土曜日)。内外より講演者を招き、特別講演会を開催する。
  - 3) 機関誌『麗澤レビュー』の発行

## 付 則

- (1) この規約は、平成16年6月12日から改正、施行する。
- (2) この規約は、平成22年6月26日から改正、施行する。
- (3) この規約は、平成23年6月11日から改正、施行する。

令和4年9月30日発行

発行者 〒277-8686 柏市光ヶ丘2-1-1  
麗澤大学外国語学部  
麗澤大学英米文化研究会  
email: reitakusocietyeac@gmail.com



Cover Design  
by T. Murakami

Reitaku Society for  
English & American Cultures